

海の生きもの観察ノート⑩

# 磯の貝を 観察しよう



千葉県立中央博物館分館  
海の博物館

## はじめに

貝類はいろいろな面で私たちになじみの深い生きものです。アサリやシジミなどは食用として食卓にのぼりますし、海辺で拾える美しい貝殻は収集の対象になります。陸産の巻貝であるカタツムリは子供たちのよい遊び相手です。磯で生きものの観察をする時にも、魚類や、エビ・カニなどの甲殻類、ウニ・ヒトデなどの棘皮動物と並んで、貝類はよく見つかる動物です。このように親しまれている動物だけあって、貝類の図鑑はさまざまなものが出版されています。しかし、貝類には非常にたくさんの種類があり、多くの図鑑では日本全国のさまざまな環境に住む種類が掲載されているため、目の前の貝の名前をいざ調べようとすると苦労することも少なくありません。本冊子は、主に勝浦を中心とした外房の磯で観察できる貝類約200種をまとめたものです。勝浦の磯で普通に見られる貝類の大部分を掲載したほか、多くの図鑑類では調べにくい小さい貝をなるべく多く収録しました。本冊子をこの地域で磯観察をするときのガイドブックとして活用していただければ幸いです。なお、巻貝の仲間の一部であるウミウシ類は本シリーズの⑥「ウミウシを観察しよう」に掲載されていますので、あわせて参考にしてください。

## 目次

はじめに	2
多様な貝類たち	3
貝類のからだ	4
磯で貝を観察しよう	5
ヒザラガイの仲間	6
巻貝の仲間	8
二枚貝の仲間	31
参考図書	35

**表紙の写真** 左上：エビスガイ(ニシキウスガイ科) *Calliostoma unicum*  
右上：ホシキヌタ(タカラガイ科) *Cypraea vitellus*  
左下：ポウシュウボラ(フジツガイ科) *Charonia lampas sauliae*  
右下：ミガキボラ(エソボラ科) *Kelletia lischkei*

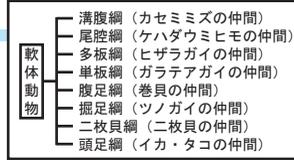
**裏表紙の写真** 海底の堆積物を食べるマガキガイ(ソデボラ科) *Strombus luhuanus*

## 多様な貝類たち

貝類は、学術的な仲間わけでは軟体動物とよばれるグループの動物です。軟体動物は世界で10万種類以上がいるといわれ、日本産だけでも8000種を超える種数が知られる、非常に繁栄している動物です。軟体動物は右図に示すように8つのグループに分けられます。これらは体の形は様々ですが、骨や関節のない柔らかい体を持っていること、多くのものが貝殻を持っていること(中には殻を持たない種類も含まれます)、二枚貝を除き口の中に食べ物を食べる時に使う歯舌という器官を持っていることなどの共通した特徴が見られます。

貝類は種数が多いだけに、生息している場所も多岐にわたります。海に住む貝類は最も多数派で、住み場所も波しぶきがかかるだけの海岸上部(飛沫帯)から、水深数千メートルの深海におよび、水中や海面を一生漂ったままで生活するものもいます。海以外でも、池や川などの淡水中や陸上に生息する貝類は少なくありません。

貝類は種類により大きさも様々です。世界最大の軟体動物は硬い殻を持たない頭足類のダイオウイカで、腕をふくめた全長が10mに達するといわれています。殻を持つものでは、オーストラリア産のアラフラオオニシ(殻長約80cm)や熱帯太平洋産のオオシャコガイ(殻長1m)のように大きな種類がいる一方、成長しても1mmに満たないへん小さなものも少なくありません。房総半島の磯でふつうに観察できる貝類では、大きいものは殻長約20cmのポウシュウボラが最大ですが、一方であまり目に触れないものの顕微鏡サイズの小さい貝(微小貝)も多様な種類が生息しており、観察の仕方を工夫するといろいろな種類をみつけることができます。



海面を漂って生活するルリガイ。風で海岸に打ち上げられることもある。



世界最大の二枚貝オオシャコガイ。熱帯太平洋のサンゴ礁に生息する。

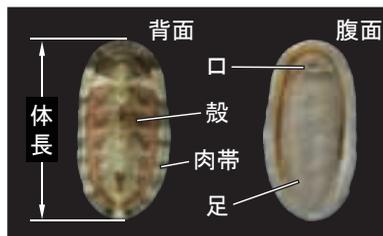


本冊子では、先にあげた8つのグループのうち、ヒザラガイの仲間、巻貝の仲間、二枚貝の仲間の3つのグループに含まれ、勝浦を中心とした房総半島の磯で見られる種類を解説します。

# 貝類のからだ

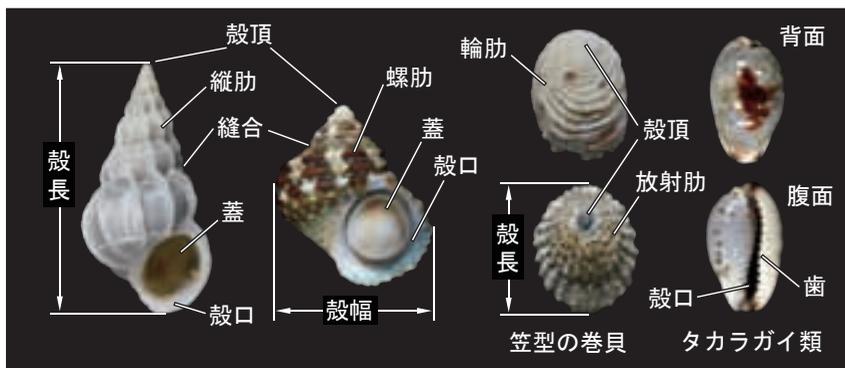
貝類は、グループにより基本的な体の形が非常に異なります。ここでは、本冊子で扱う3つのグループについて、体の基本的な構造や、説明に用いた各部の名称を中心に解説します。

**多板綱（ヒザラガイの仲間）** 前後に長い楕円形の平たい体を持ち、腹面の足で岩に付着します。背面中央には8枚の殻が前後方向に並びます。背面の殻におおわれていない部分は肉帯とよばれます。

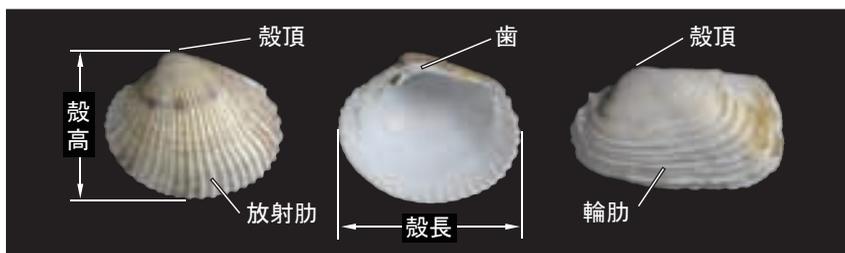


殻の形や表面の彫刻、肉帯の表面の状態などがヒザラガイ類の種を見分けるポイントです。

**腹足綱（巻貝の仲間）** 軟体動物では最も種数の多いグループです。らせんに巻いた殻を持ち、この中に軟らかい体の部分（軟体部）が収まるのが基本ですが、成体では殻を持たないものも少なくありません。殻の形は変異が大きく、らせんに巻かない笠型の殻や筒型の殻を持つものもいます。殻の大きさや形、色彩、表面の彫刻のほか、蓋や軟体部の特徴も巻貝の種を見分けるポイントになります。



**二枚貝綱（二枚貝の仲間）** 体の左右に一枚ずつの殻を持ち、この間に軟体部が収まった構造のグループです。二枚の殻は左右対称が基本ですが、形や大きさが左右で違うものもあります。殻の外形や表面の彫刻のほか、ちょうつがいの内側にある歯の形や殻内面の軟体部の付着痕などが二枚貝の種を見分けるポイントです。



殻の表面の盛り上がったスジは肋と呼ばれます。巻貝でらせんに平行なものを螺肋、これに直角なものを縦肋といい、笠型の貝や二枚貝で殻頂から放射状に延びるものを放射肋、同心円状のものを輪肋といいます。

## 磯で貝を観察しよう

複雑な地形の磯は貝類の絶好の住みかです。潮の引いた磯で、さまざまな貝類を観察してみましょう。

**飛沫帯の貝** 潮が満ちても水が来ない高さで波しぶきがかかるだけのところにも、カモガイやコガモガイ類、タマキビのなかまなどの貝類が住んでいます。

**潮間帯一岩の上の貝** 潮の満ち引きにより海中になったり陸上になったりするところが潮間帯です。干上がった岩の表面をよく見ると、ウノアシやキクノハナガイなどがたくさん付着しています。ケガキは、片方の殻で岩に固着しています。

**潮間帯一岩陰の貝** 潮間帯のなかでも、岩の割れ目や岩と岩のすき間などの乾燥しにくいところには、イシダタミ、スガイ、コシタカサザエ、ヒザラガイをはじめ、さまざまな貝類が集まっています。

**潮間帯一石の下の貝** 潮間帯の転石を裏返すと、その下にはウスヒザラガイ類やサンショウガイ、クボガイ類などが見られます。ひっくり返した石は観察が終わったら元に戻しておきましょう。

**潮だまりの貝** 潮が引いても海水が取り残されるところが潮だまりです。潮だまりの海藻には、チグサガイやフトコロガイ、マツムシなどが住んでいます。細かく枝分かれしたサンゴモのなかまを虫眼鏡で拡大してみると、オオシマチグサカニモリやミジンツツガイのなかまなどの小さい貝がたくさん見られます。

**砂の中の貝** 潮だまりにたまった砂の中には、シラトリモドキやウチムラサキなどの二枚貝やホウシュノタマなどが住んでいます。また、砂を乾かしてくわく調べると、さまざまな種類の小さい貝の殻が見つかります。



乾燥した飛沫帯にも貝類は生息する。岩陰に見える貝はカモガイ。



潮間帯にはいろいろな環境のところがあ、多くの貝類が観察できる。



転石の下は捕食者に襲われることが少なく、さまざまな貝類が生息している。

### 貝類の生活—独自の行動や生態

磯に住む貝には、おもしろい生態や行動を持つものが少なくありません。ウノアシやキクノハナガイは餌を食べに移動するとき以外はいつも同じところに付着している「家を持つ貝」です。岩に固着して動き回れないオオヘビガイは、口から粘液を出して水中に浮遊している餌を集めます。ハナゴウナ科の仲間やウニやヒトデの体の表面に寄生しています。ムラサキインコやアコヤガイは足糸というタンパク質の糸を出して岩に付着します。イシマテやヤエウメは軟らかい岩に穴を掘って住み、穴の中で一生を過ごします。貝を観察する時は、その生活のようすにも目を向けてみましょう。



足糸を出して潮間帯の岩に付着し、集団で生活するムラサキインコ

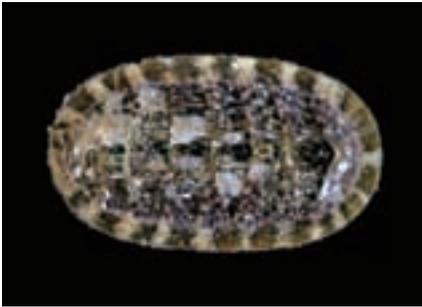
## ヒザラガイの仲間1



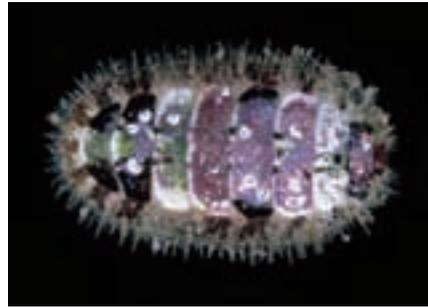
ウスヒザラガイ (ウスヒザラガイ科)  
*Ischnochiton comptus*  
体は平たく色は変化に富みます。ホソウスヒザラガイと非常によく似ています。潮だまりの石の下にすみずみ。体長約3cm。



ホソウスヒザラガイ (ウスヒザラガイ科)  
*Ischnochiton boninensis*  
本種の肉帯の鱗片には細いスジがあり、鱗片が平滑なウスヒザラガイと見分けられませんが、区別は難しいです。体長約3cm。



ヤスリヒザラガイ (ウスヒザラガイ科)  
*Lepidozona coreanica*  
ウスヒザラガイより体の幅がやや広く、殻の表面に多数の縦のスジがあるためザラザラにみえます。体長約4cm。



ヒゲヒザラガイ (ヒゲヒザラガイ科)  
*Mopalia retifera*  
肉帯の表面には細かいトゲが生えたヒゲ状突起が多数あります。潮間帯～潮下帯の転石下で見られます。体長約3cm。



ババガセ (ヒゲヒザラガイ科)  
*Placiphorella simpsoni*

体は幅広くて円形に近く、殻も横長です。潮間帯から潮下帯の岩のすき間や大きな転石の下に住みます。肉食性で、体の前部を持ち上げて岩との間にすき間を作り、ここに入ってきた小型の甲殻類などをつかまえて食べます。体長約5cm。

## ヒザラガイの仲間2



クサズリガイ (クサズリガイ科)

*Rhysoplax kurodai*

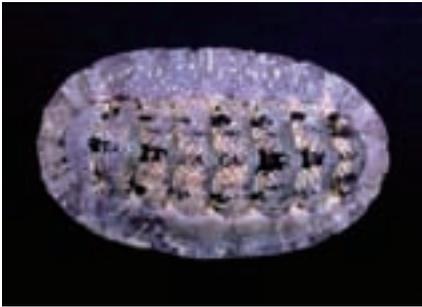
肉帯はなめらかで光沢のある鱗片でおおわれます。色彩は変化に富みます。潮だまりの石の下で見られます。体長約3cm。



ヒザラガイ (クサズリガイ科)

*Acanthopleura japonica*

肉帯は先の丸い短いトゲでおおわれます。潮間帯の岩のくぼみや岩のすきまで普通に見られます。体長約5cm。



ニシキヒザラガイ (クサズリガイ科)

*Onithochiton hirasei*

ヒザラガイより色彩が鮮やかで、肉帯が滑らかです。潮間帯の岩のすきまや潮だまりの石の下で見られます。体長約5cm。



ヒトデヒザラガイ (ケハダヒザラガイ科)

*Notoplax conica*

体は薄茶色で、殻の幅が狭く、肉帯には長いトゲの束が並びます。潮だまりの石の下で見られます。体長約2cm。



ヒメケハダヒザラガイ (ケハダヒザラガイ科)

*Acanthochitona achates*

殻の幅が狭く、肉帯にトゲの束が規則的に並びます。潮間帯の岩のくぼみや石の下で普通に見られます。体長約4cm。

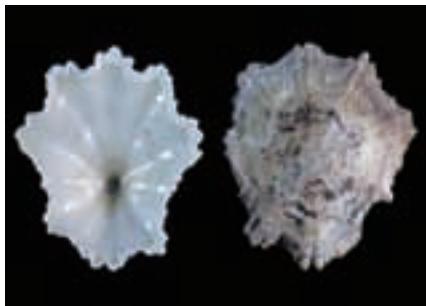


ケムシヒザラガイ (ケムシヒザラガイ科)

*Cryptoplax japonica*

体は細長くよく伸縮します。殻は小さく殻と殻の間が離れています。潮間帯の砂に埋まった石の下で見られます。体長約8cm。

## 巻貝の仲間1



ツタノハガイ (ツタノハガイ科)

*Scutellastra flexuosa*

殻は背の低い笠型で、表面にはさまざまな太さの放射肋があり、外形は不規則です。潮間帯～潮下帯で見られます。殻長約6cm。



ヨメガカサ (ヨメガカサ科)

*Cellana toreuma*

笠型の貝で、殻の高さは変異があります。潮間帯で普通に見られます。殻の表面には細かい放射肋があります。殻長約4cm。



マツバガイ (ヨメガカサ科)

*Cellana nigrolineata*

殻は低い笠型で、潮間帯の岩陰などで見られます。殻の色は青灰色で、赤褐色の放射状の模様があります。殻長約6cm。



ベッコウガサ (ヨメガカサ科)

*Cellana grata*

笠型の貝で、潮間帯の岩陰で見られます。殻は高くして表面の放射肋が強く、暗褐色のまだら模様があります。殻長約4cm。



ウノアシ (ユキノカサガイ科)

*Patelloida sacchalina form lanx*

笠型の貝で、7～8本の強い放射肋があります。潮間帯の岩に付着し、付着部分の岩は殻の形にへこんでいます。殻長約3cm。



カモガイ (ユキノカサガイ科)

*Lottia dorsuosa*

波当たりの強い潮間帯上部～飛沫帯の岩陰に集団で住みます。殻表には強い放射肋があり、殻頂はとがります。殻長約4cm。



コガモガイの仲間 (ユキノカサガイ科)

*Lottia* spp.

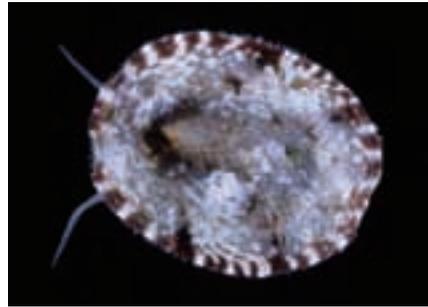
小型の笠型の貝で、潮間帯の岩の表面などで多数見られます。コガモガイ・コモレビコガモガイ・オボロツキコガモガイの3種があり、殻表の放射肋の太さや殻の模様などに違いがありますが、見分けるのは簡単ではありません。殻長約1.5cm。



クサイロアオガイ (ユキノカサガイ科)

*Nipponacmea fuscoviridis*

殻は低い笠型で、殻頂は殻の前端近くにあり、殻の内面は青緑色です。潮間帯の岩陰などで見られます。殻長約2cm。



サクラアオガイ (ユキノカサガイ科)

*Nipponacmea gloriosa*

殻は低い笠型で、アオガイの仲間としては珍しく殻の内面は白色~薄赤色です。潮間帯の石の下で見つかります。殻長約2cm。



アラミアアナアキエビス (クチキレエビス科)

*Sinezona consolata*

殻は白色で小さく、殻口近くの体層に細長い穴が開いています。潮だまりの海藻から生きた個体が見つかります。殻長約1mm。



トコブシ (ミミガイ科)

*Haliotis diversicolor aquatilis*

殻表に7~8個の穴があります。穴のまわりは管状に立ち上がりません。潮間帯の岩のすき間などに住みます。殻長約7cm。

### 巻貝の仲間3



シロスソカケ (スカシガイ科)  
*Tugali decussata*

殻は白色で前後に長く、前端付近に浅い切れ込みがあります。殻頂は後方寄りにあります。潮間帯に住みます。殻長約1.5cm。



オトメガサ (スカシガイ科)  
*Scutus sinensis*

軟体部の色は薄茶色または黒色で、生きているときは軟体部で殻をおおっています。潮だまりで見られます。殻長約4cm。



クズヤガイ (スカシガイ科)  
*Diodora sieboldi*

殻は笠型で、表面に11本の強い放射肋があります。殻頂には穴が開いています。殻の色彩には変異があります。殻長約2cm。



テンガイ (スカシガイ科)  
*Diodora quadriradiatus*

殻は笠型で、表面は太い放射肋と輪肋で格子状になります。殻頂はやや前寄り、縦長の穴が開いています。殻長約1.5cm。



ヒラスカシガイ (スカシガイ科)  
*Macroschisma dilatatum*

殻は楕円形で、中央近くに穴が開いています。軟体部は殻からはみ出します。潮だまりの石の下に住みます。殻長約1.5cm。



スカシガイ (スカシガイ科)  
*Macroschisma sinense*

ヒラスカシガイと似ていますが、殻は前後に長く、穴はやや後ろ寄りです。潮だまりの石の下で見られます。殻長約2.5cm。

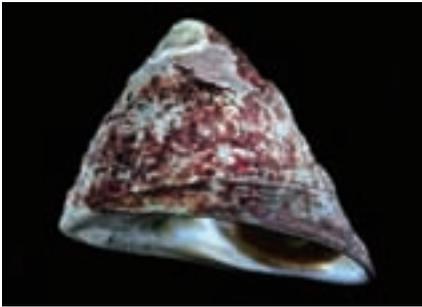
## 巻貝の仲間4



クボガイ (ニシキウズガイ科)  
*Chlorostoma lischkei*  
殻表は斜めの縦肋がありしわ状です。黒褐色で、殻底の中心付近は緑色です。潮間帯にたくさん住んでいます。殻長約2.5cm。



クマノコガイ (ニシキウズガイ科)  
*Chlorostoma xanthostigma*  
クボガイに似ますが、殻表にしわは無く平滑です。殻は黒っぽく、殻底の中心付近は薄い緑色です。殻長約2.5cm。



バテイラ (ニシキウズガイ科)  
*Omphalius pfeifferi pfeifferi*  
殻は円錐形で、表面には細かい斜めの縦肋がありますがほぼ平滑です。「したか」と呼ばれ食用にされます。殻長約4.5cm。



アシヤガイ (ニシキウズガイ科)  
*Granata lyrata*  
殻は灰色で、細い螺肋の上に黒褐色の斑点があります。殻口は大きく、殻の内面には真珠光沢があります。殻幅約1.5cm。

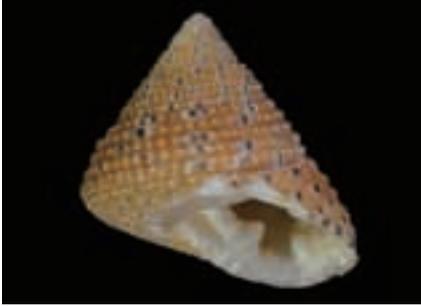


イボサンショウガイモドキ (ニシキウズガイ科)  
*Herpetopoma pauperculus*  
殻は小さく、丸みを帯び、顆粒状の螺肋でおおわれます。淡い褐色の地に黒褐色の斑点が散在します。殻長約6mm。



ウズイチモンジ (ニシキウズガイ科)  
*Trochus rota*  
殻は円錐形で、殻底周縁はこぶの列で歯車状になります。ウラウズガイと似ていますが、本種の蓋は角質です。殻長約2.5cm。

## 巻貝の仲間5



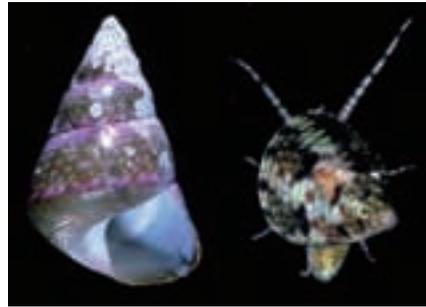
シロナツモモ (ニシキウズガイ科)  
*Clanculus gemmulifer pallidus*  
 殻は円錐形で、薄いオレンジ色の地に白く縁取られた小さい黒斑があります。勝浦で一度だけ採集されました。殻長約1cm。



イシダタミ (ニシキウズガイ科)  
*Monodonta labio form confuse*  
 丸みを帯びたドーム状で、殻は緑がかった黒褐色です。殻表は細かい長方形の石畳を敷きつめたように見えます。殻長約2cm。



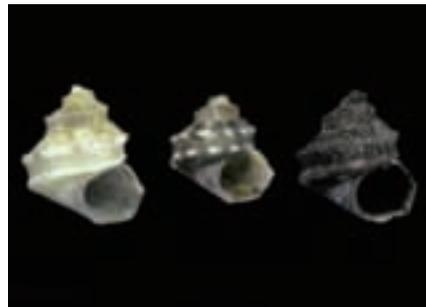
クビレクロツケ (ニシキウズガイ科)  
*Monodonta purplexa purplexa*  
 殻は丸みを帯び、殻表はなめらかで殻口下部に突起があります。潮間帯の日の当たらない岩陰などで見られます。殻長約2cm。



チグサガイ (ニシキウズガイ科)  
*Cantharidus japonicus*  
 殻は高い円錐形で周縁はやや角ばり、色彩は変化に富みます。良く似た数種があり、見分けるのは難しいです。殻長約1cm。



エビスガイ (ニシキウズガイ科)  
*Calliostoma unicum*  
 殻は丸みをおびた円錐形で、赤褐色の地に黄白色や濃褐色の斑紋があります。潮間帯～潮下帯の岩礁に住みます。殻長約2cm。



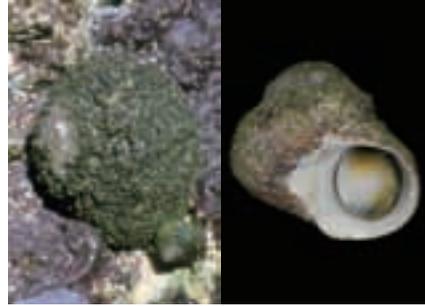
ケシツブシタダミ (ニシキウズガイ科)  
*Conotalopia minima*  
 殻は小型で、2本の強い螺肋があります。色彩は変異に富みます。潮だまりの中の砂からたくさん見つかります。殻長約2mm。



サンショウガイ (サザエ科)

*Homalopoma nocturnum*

殻は赤褐色で丸みを帯び、多くの螺肋があります。潮だまりの石の下などで普通に見られます。殻長約5mm。



スガイ (サザエ科)

*Turbo coronatus coreensis*

殻は低く、生きていたときはカイゴロモという緑藻におおわれます。潮間帯の岩のすきまなどで見られます。殻幅約2.5cm。



サザエ (サザエ科)

*Turbo cornutus*

殻表の棘の有無には個体差があります。蓋には渦巻き状の溝があります。潮間帯下部～潮下帯に生息します。殻長約12cm。



コシタカサザエ (サザエ科 : 写真右)

*Turbo stenogyrus*

サザエ (写真左) より殻口が小さく、蓋の表面に溝はありません。潮間帯で普通に見られます。殻長約3cmでサザエより小型。



ウラウズガイ (サザエ科)

*Astralium haematragum*

殻は円錐形で、周縁は歯車状になります。ウズイチモンジと似ますが、本種の蓋は石灰質で紫色を帯びます。殻長約3cm。



ベニバイ (サザエ科)

*Tricolia variabilis*

殻は小さく、殻表はなめらかで赤～橙色の様々な模様があります。蓋は石灰質で白く表面は滑らかです。殻長約4mm。

## 巻貝の仲間7



アマオブネガイ (アマオブネガイ科)  
*Nerita albicilla*

殻口が大きく、口の周辺に白色のなめらかな層が発達します。潮間帯の岩のすきまなどで普通に見られます。殻幅約2cm。



コベルトカニモリ (オニノツノガイ科)  
*Cerithium dialaecum*

殻は細長く、殻表はごつごつします。千葉県では少なく、生きている個体はあまり見つかかりません。写真は幼貝。殻長約3cm。



カニモリガイ (オニノツノガイ科)  
*Proclava kochii*

殻は細長く、顆粒列でおおわれます。殻をやドカリが好んで利用します。殻長約3cm。



ノミカニモリ (オニノツノガイ科)  
*Bittium glareosum*

殻表は螺肋と縦肋で格子状になります。色彩には変異があります。殻長約5mm。



オオシマチグサカニモリ (オニノツノガイ科)  
*Ittibittium parcum*

殻は高円錐形で、周縁でやや角ばります。潮間帯の海藻上で見られます。殻長約7mm。



スズメハツボ (スズメハツボ科)  
*Diala semistriata*

殻表は平滑で、殻底部には螺肋があります。色彩は変化に富みます。殻長約5mm。



ホソウミニナ (ウミニナ科)  
*Batillaria cumingii*

殻は細長く、殻表には石畳状の彫刻があります。潮間帯の岩の間に砂のたまった場所などに群生します。ウミニナの仲間では外洋性です。殻長約3cm。



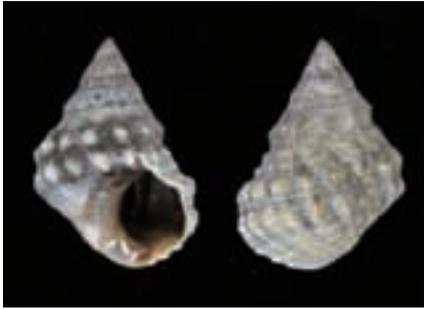
コビトウラウズガイ (タマキビ科)  
*Peasiella habei*

殻は低い円錐形で周縁は角張り、殻底は平らです。潮間帯上部～飛沫帯の潮だまりの中で見られます。殻幅約3mm。



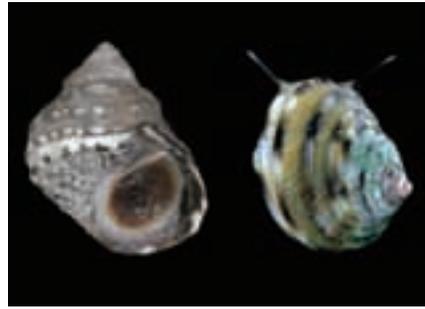
アラレタマキビ (タマキビ科)  
*Nodilittorina radiata*

殻は丸みを帯び、細かい顆粒列のある螺肋でおおわれます。波当たりの強い岩礁の飛沫帯に群生します。殻長約8mm。



イボタマキビ (タマキビ科)  
*Nodilittorina trochoides*

殻は円錐形で、白いイボのある2本の螺肋を持ちます。アラレタマキビと同じようなところに生息します。殻長約1cm。



タマキビ (タマキビ科)  
*Littorina brevicula*

殻は丸みを帯び、殻表に3～5本の螺肋を持ち、殻口下部がやや張り出します。潮間帯上部～飛沫帯に住みます。殻長約1.5cm。



チビスナモチツボ(スナモチツボ科)  
*Scaliola glareosa*

殻は白色で細長く、殻口は円形で、殻表に細かい砂粒を付着させます。殻長約4mm。



チャツボ(チャツボ科)  
*Barleeia angustata*

殻は褐色で、潮間帯の海藻上に住みます。類似した種が多くいます。殻長約2.3mm。



オチヨボグチツボ(オチヨボグチツボ科)  
*Amphithalamus fulcra*

チャツボに似ますがより小さく、成熟した個体では殻口が狭くなります。殻長約1mm。

## 巻貝の仲間9



オガサワラリソツボ(リソツボ科)  
*Alvania ogasawarana*  
殻は半透明な赤褐色で、殻表は細かい縦肋と螺肋で格子状になります。殻長約2.5mm。



タマツボ(リソツボ科)  
*Alvania concinna*  
殻は茶褐色で、殻表には太い縦肋と多数の細かい螺肋があります。殻長約2.8mm。



マキウネツボ(リソツボ科)  
*Alvania circinata*  
殻は淡褐色で光沢があり、殻表の彫刻は数本の螺肋のみです。殻長約2mm。



トクナガツボ(リソツボ科)  
*Manzonina tokunagai*  
殻は淡褐色で、強い螺肋と縦肋があり、縦肋は体層で弱くなります。殻長約2.5mm。



トウキョウリソツボ(リソツボ科)  
*Merelina tokyoensis*  
殻は赤褐色で、殻口は白色です。強い螺肋とやや弱い縦肋があります。殻長約3mm。



トゲツブチョウジガイ(リソツボ科)  
*Merelina wanawana*  
殻は白色半透明で、殻表は縦肋と螺肋が交わり格子状になります。殻長約1.8mm。



ニセチョウジガイの一種(リソツボ科)  
*Rissoina* sp.  
殻は白色で、殻表には規則的な縦肋があり、殻口はやや厚くなります。殻長約6mm。



ヒナチョウジガイ(リソツボ科)  
*Schwartziella ephamilla*  
殻は白色で縦肋を持ち、殻頂部は平滑でとがった円錐形です。殻長約2.3mm。



ハスメチョウジガイ(リソツボ科)  
*Schwartziella zeltneroides*  
殻は白色で褐色の帯を持つ個体もいます。殻表に斜めの彫刻があります。殻長約3mm。

## 巻貝の仲間10



カワリポリチョウガイ(リソツボ科)  
*Rissoina okinawensis*  
細かい螺肋と、殻頂部ほど強い斜めの縦肋があります。写真は幼貝です。殻長約6mm。



ゴマツボモドキ(カワグチツボ科)  
*Iravadia bella*  
殻は薄く白色半透明で、多数の細く弱い螺肋でおおわれます。殻長約5mm。



カワザンショウガイの一種  
(カワザンショウガイ科)  
*Angustassimineia* sp.  
潮上帯の湿った岩陰や転石下で見られます。殻長約3mm。



ミジンギリギリツツの一種  
(ミジンギリギリツツ科)  
*Caecum* sp.  
殻は白色の筒状で、多数の輪肋を持ちます。殻長約2mm。



マダラミジンギリギリツツ  
(ミジンギリギリツツ科)  
*Caecum maculatum*  
殻は白色で赤褐色の模様があります。殻長約2.5mm。



ミジンツツガイ  
(ミジンギリギリツツ科)  
*Caecum glabella*  
殻は赤褐色の筒状で、殻表は平滑です。殻長約2mm。



シラギク(イソコハクガイ科)  
*Pseudoliotia pulchella*  
殻は白色半透明です。殻表に太い螺肋と縦肋がありごつごつしています。殻幅約3mm。



ウミコハクガイ(イソコハクガイ科)  
*Teinostoma lucida*  
殻は白色半透明で強い光沢を持ちます。殻表は平滑です。殻幅約2mm。



ウツブシシタダミ(イソコハクガイ科)  
*Moerchinella obvolvata*  
殻は白色で、殻表には非常に細かい縦肋があり、殻口は下側を向きます。殻幅約2mm。

## 巻貝の仲間11



マガキガイ (ソデボラ科)

*Strombus luhuanus*

殻の形は逆円錐形で殻口が細長く、イモガイ類に似ています。長い柄のある眼を持ちます(裏表紙参照)。殻長約6cm。



キクスズメ (スズメガイ科)

*Hipponix conica*

殻は笠型で厚く、殻表に太い放射肋があります。いろいろな巻貝類の殻に付着し、巻貝の出す排泄物を食べます。殻長約2cm。



カワチドリ (スズメガイ科)

*Hipponix foliacea*

殻は笠型で、殻表には板状の輪肋があります。潮間帯の岩に付着し、付着部に石灰質の台座を作ります。殻長約1cm。



スズメガイ (スズメガイ科)

*Hipponix trigona*

殻は笠型で、細かい放射肋と輪肋があり、黄褐色のけば立った殻皮でおおわれます。潮間帯の岩に付着します。殻長約2cm。



アワブネガイ (カリバガサガイ科)

*Crepidula gravispiñosus*

殻は平たく、内側に板状の隔板がありスリッパ状で、殻表にはトゲの列があります。潮間帯の岩に付着します。殻長約2cm。



オオヘビガイ (ムカデガイ科)

*Serpulorbis imbricatus*

殻は潮間帯の岩に固着し、巻きは不規則です。口から出した粘液を水中に漂わせ、付着した有機物を食べます。殻幅約5cm。



ホシキヌタ (タカラガイ科)  
*Cypraea vitellus*

殻はよくふくれ、背面は褐色で多数の白色斑点があります。側面には暗色の細いスジがあり、腹面は白色です。殻長約5cm。



クチグロキヌタ (タカラガイ科)  
*Cypraea onyx*

背面は褐色で、うすい黄褐色の横帯が2本あります。側面から腹面にかけては黒色です。殻長約4.5cm。



ナツメモドキ (タカラガイ科)  
*Cypraea errones errones*

背面は青灰色で明色の横帯を2本持ち、茶褐色の細かい斑点が散在します。腹面は白色です。殻長約3.5cm。



クロダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea listeri*

背面は灰褐色で、茶褐色の斑点でおおわれます。側面に黒色の斑紋があり、腹面は平らで白色です。殻長約2cm。



メダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea gracilis*

背面は薄茶色で褐色のまだら模様があり、中央に黒褐色の斑紋があります。腹面は白色で、黒い点が散在します。殻長約2cm。



チャイロキヌタ (タカラガイ科)  
*Cypraea artuffeli*

背面は薄茶色で、やや淡色の2本の横帯があります。成長すると前後端が黄褐色になります。腹面は白色です。殻長約2cm。

## 巻貝の仲間13



カミスジダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea clandestina clandestine*

チャイロキヌタに似ますが、背面に細かい褐色のジグザグ模様が入ります。前後端は黄褐色で、腹面は白色です。殻長約2cm。



コモンダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea erosa*

背面は灰褐色で細かい白色斑点でおおわれます。側面には細い螺肋があります。腹面は白色で、黒斑を持ちます。殻長約4cm。



ハツキダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea miliaris*

殻は丸みがあり、背面は黄褐色で、輪郭のはっきりしない白色斑点でおおわれます。腹面は白色です。殻長約4.5cm。



ナシジダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea labrolineata*

背面は灰褐色～黄褐色で、白色の斑点でおおわれます。側面に黒色斑点があります。腹面は白色です。殻長約2.5cm。



オミナエシダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea boivinii*

背面は灰褐色で、白色や褐色の斑点が散在し、その上を乳白色の層がおおいます。腹面は白色です。殻長約3cm。



アヤマダカラ (タカラガイ科)

*Cypraea poraria*

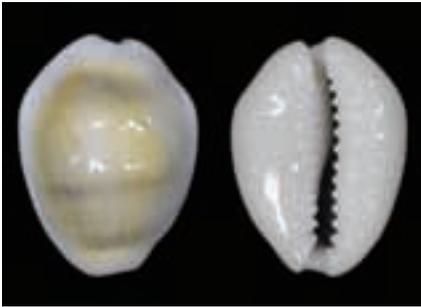
背面は淡褐色で、褐色でふちどられた白色～薄紫色の斑点が散在します。側面から腹面は薄い紫色です。殻長約2cm。



カモンダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea helvola helvola*  
背面は赤褐色で、やや濃色の斑点のまわりを小さい白色斑点が囲みます。前後端は薄紫色で、腹面は赤褐色です。殻長約3cm。



ハナピラダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea annulus*  
殻の輪郭は円形に近く、背面は薄い灰緑色で橙黄色の環状の模様が入ります。側面から腹面は白色です。殻長約3cm。



キイロダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea moneta*  
殻はやや角ばってごつごつします。背面は黄白色で、3本のやや暗色の横帯があります。腹面は白色です。殻長約3cm。



ハナマルユキ (タカラガイ科)  
*Cypraea caputserpentis caputserpentis*  
背面は濃褐色で、大小の白色斑点が散在します。側面から腹面は暗褐色で、殻口の歯とその周辺は白色です。殻長約4cm。



シボリダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea limacina limacina*  
背面は紫褐色で、わずかに隆起した白色斑紋が散在します。腹面は白色で、歯の周りとの殻の前後端は黄褐色です。殻長約3cm。



サメダカラ (タカラガイ科)  
*Cypraea staphylaea staphylaea*  
シボリダカラとよく似ますが、背面の白斑は小さくイボ状に盛り上がり、歯が長く腹面全体に伸びます。殻長約2.5cm。

## 巻貝の仲間15



ザクロガイ (シラタマガイ科)  
*Erato callosa*  
殻は小さいタカラガイ型で、なめらかです。潮間帯の転石下に住みます。殻長約5mm。



ザクロガイモドキ (シラタマガイ科)  
*Erato sulcifera*  
前種に似ますが、殻表には細かいイボがあります。殻口下端は赤色です。殻長約4mm。



セトベッコウタマガイ (ハナツトガイ科)  
*Coriocella setoensis*  
体は橙色で、背面に一对のこぶ状隆起を持ちます。殻は体内にあります。体長約3cm。



イボベッコウタマガイ (ハナツトガイ科)  
*Coriocella nigra*  
殻は半透明の薄いアワビ型で、体内に埋もれ外からは見えません。体は黒色で、背面に2対の丸い隆起があります。体長約8cm。



ホウシュノタマ (タマガイ科)  
*Natica gualteriana*  
殻は球形で、蓋は石灰質です。殻色は淡褐色～灰色で、縫合部は淡色になり、波線状の模様を持つものもいます。殻長約2cm。



ボウシュウボラ (フジツガイ科)  
*Charonia lampas sauliae*  
殻は厚く、ごつごつしたイボの列があります。褐色のまだら模様があり、殻口は白く褐色の弱いヒダがあります。殻長約20cm。

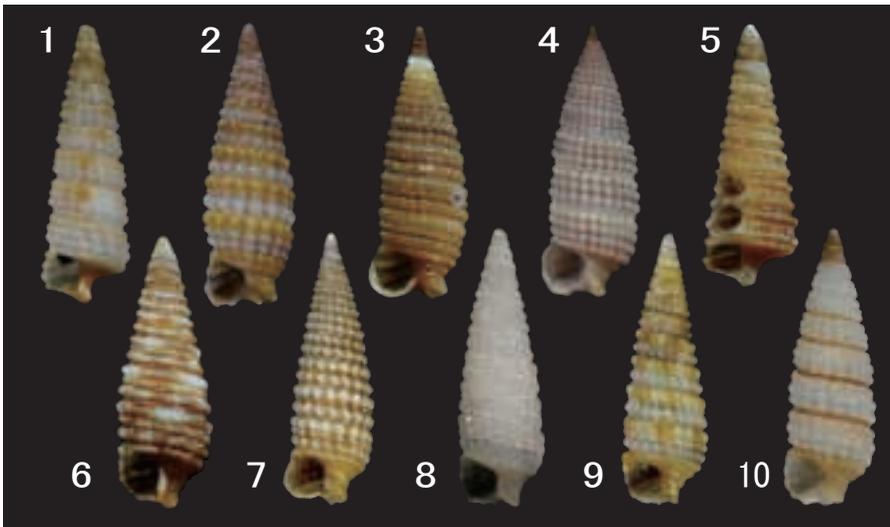


カコボラ (フジツガイ科)  
*Cymatium parthenopeum*  
殻は淡褐色で2本の強い螺肋があり、殻口には白黒の縞模様があります。生時は厚い褐色の殻皮でおおわれます。殻長約12cm。



クリイロケシカニモリ科の仲間 殻は右巻きで細長く、多くは殻表に強い螺肋や縦肋を持ちます。いろいろな環境に住み、潮間帯でもさまざまな種類が見つかりますが、あまり研究されていないため種名のわからないものが多いです。カイメン類を食べます。

1:ケシカニモリ *Notoseila morishimai* 殻長約9mm. 2:ニレツサナギチビカニモリ *Horologica bipartita* 殻長約2.5mm. 3:クリイロケシカニモリ科の一種1 *Horologica* sp. 殻長約1.5mm. 4:クリイロケシカニモリ科の一種2 *Joculator* sp. 1 殻長約2mm. 5:クリイロケシカニモリ科の一種3 *Joculator* sp. 2 殻長約3mm. 6:クリイロケシカニモリ科の一種4 *Tubercliopsis* sp. 殻長約4mm. 7:クリイロケシカニモリ科の一種5 *Cerithiopsis* sp. 殻長約4mm.



ミツクチキリオレ科の仲間 殻は細長くほとんどの種が左巻きで、多くは殻表に強い螺肋を持ち、縦肋と交わって顆粒状になるものがあります。非常に種数が多く、潮だまりの砂の中からもさまざまな種類の殻が見つかります。カイメン類を食べます。

1:アラレキリオレ *Inella japonica* 殻長約1cm. 2:ヘリトリムラサキキリオレ *Monophorus hervieri* 殻長約1cm. 3:レンガマキキリオレ *Monophorus testaceus* 殻長約7mm. 4:コムラサキキリオレ近似種 *Monophorus* sp. 殻長約7mm. 5:キリオレ *Viriola tricincta* 殻長約1.5cm. 6:トウマキキリオレダマシ *Viriolopsis fallax* 殻長約5mm. 7:ホソアラレキリオレ *Bouchettriphora* cf. *otsuensis* 殻長約6mm. 8:シラユキキリオレ *Bouchettriphora pallida* 殻長約6mm. 9:サフランキリオレ *Bouchettriphora conspersa* 殻長約7mm. 10:ミツクチキリオレ科の一種 *Mesophora* sp. 殻長約7mm.

## 巻貝の仲間17



ネジガイ(イトカケガイ科)  
*Gyroscala lamellose*  
殻表に規則的な板状の縦肋を持ちます。殻は白色で、縫合下は褐色です。殻長約2cm。



ヒメネジガイ(イトカケガイ科)  
*Epitonium japonicum*  
縦肋は縫合の下で高くなります。イソギンチャク類の近くで見つかります。殻長約1cm。



タテヨコイトカケ近似種  
(イトカケガイ科)  
*Epitonium* sp.  
縦肋は細かく、縦肋間は螺肋で刻まれます。殻長約5mm。



ウスカワイトカケ(イトカケガイ科)  
*Epitonium bullatum*  
殻は薄くよくふくらみます。生時は殻にイソギンチャクを付けています。殻長約2cm。



ゴマフクリムシ(ハナゴウナ科)  
*Sticteulima lentiginosa*  
殻は淡褐色半透明で、褐色の細かい点からなるまだら模様があります。殻長約2.5mm。



ムラサキウニヤドリニナ(ハナゴウナ科)  
*Vitreolina langfordi*  
殻は白色で、細い褐色の帯があります。ムラサキウニなどに寄生します。殻長約5mm。



キンイロセトモノガイ(ハナゴウナ科)  
*Vitreolina auratus*  
殻は白色で右に曲がりります。パフンウニやムラサキウニに寄生します。殻長約4mm。



ヤツデヒトデヤドリニナ(ハナゴウナ科)  
*Apicalia habeii*  
殻は白色で、軟体部の触角は赤色です。ヤツデヒトデに寄生します。殻長約1cm。



クモヒトデヤドリニナ(ハナゴウナ科)  
*Goodingia ophiuraphila*  
潮間帯に住むナガトゲクモヒトデなどのクモヒトデ類に寄生します。殻長約5mm。



ヒメヨウラク (アッキガイ科)  
*Ergalatax contractus*  
殻表に太い縦肋と細かい螺肋を持ち、白地に黒のかすり模様があります。殻長約3cm。



コウシレイシダマシ (アッキガイ科)  
*Muricodrupa* sp.  
殻表に幅広い縦肋と螺肋があり、肋の間は四角いくぼみになります。殻長約3cm。



イソバシヨウ (アッキガイ科)  
*Ceratostoma fourrieri*  
殻は薄茶色で、120°ごとに厚いひれ状の縦肋(縦張肋)が現れます。殻長約5cm。



シマレイシダマシ (アッキガイ科)  
*Morula musiva*  
螺肋のイボの列は一例ごとに淡褐色と濃褐色に染め分けられます。殻長約3cm。



シロレイシ (アッキガイ科)  
*Mancinella siro*  
殻は白く、低い円錐状のイボの列があり、殻口は大きめです。殻長約5cm。



オハグロレイシ (アッキガイ科)  
*Thais* sp.  
殻は褐色で、殻口内部は濃い紫色です。このなかまでは小型です。殻長約1.5cm

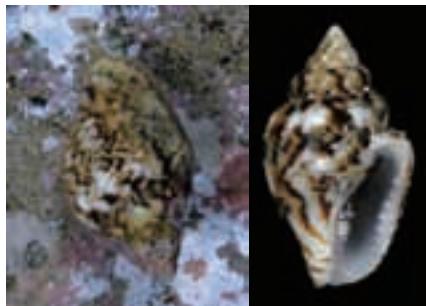


レイシガイ (アッキガイ科)  
*Thais bronni*  
殻は厚く、螺肋と縦肋の交点はイボ状になります。殻は黄白色で、縦肋上は黒色をおび、殻口内は橙色です。殻長約5cm。



イボニシ (アッキガイ科)  
*Thais clavigera*  
レイシガイに似ますがイボはやや低く、全体的に黒褐色で縦肋間はやや色が薄くなります。殻口内は黒色です。殻長約4cm。

## 巻貝の仲間19



フトコロガイ (フトコロガイ科)

*Euplica scripta*

殻口は狭く、殻口内部に細かい歯があります。殻表は平滑で、白色・黄褐色・黒褐色の細かい模様があります。殻長約1.5cm。



マツムシ (フトコロガイ科)

*Pyrene testudinaria tylerae*

殻は紡錘形で、殻口内部に細かい歯があります。殻表は平滑で、白地に黒褐色の網目模様があります。殻長約1.5cm。



ボサツガイ (フトコロガイ科)

*Anachis misera misera*

殻形はフトコロガイに似ますがやや細長く、殻表に縦肋があります。殻長約1.5cm。



ムギガイ (フトコロガイ科)

*Mitrella bicincta*

殻形はマツムシに似ますが殻口が広く、殻の模様は変化に富みます。殻長約1cm。



カムロガイ (フトコロガイ科)

*Sundamitrella impolita*

殻は紡錘形で、上部に弱い縦肋があります。殻は茶褐色の単色です。殻長約2cm。



ハハジマノミニナ (フトコロガイ科)

*Zafra hahajimana*

殻は小さく、黄白色で褐色の波線模様があります。類似種が多くいます。殻長約3mm。



ノミニナモドキ (フトコロガイ科)

*Zafra mitriformis*

殻は紡錘形で、弱い縦肋があります。茶褐色の地に淡色の帯があります。殻長約5mm。



ノミニナ的一种 (フトコロガイ科)

*Zafra* sp.

ハハジマノミニナに似ますが殻色は赤褐色で、肩に白色斑点が並びます。殻長約3mm。



シノミヨフバイ (ムシロガイ科)  
*Telasco velatus*  
殻は灰褐色で、縫合下に白色斑点が並びます。死んだ動物に集まります。殻長約2cm。



ヨフバイ (ムシロガイ科)  
*Telasco sufflatus*  
淡褐色の地に褐色の線状模様があります。殻口に細かい突起を持ちます。殻長約2cm。



ヒメムシロ (ムシロガイ科)  
*Reticunassa multigranosa*  
殻表は細かい螺肋と縦肋でおおわれます。淡褐色の地に白帯を持ちます。殻長約1cm。



クロスジムシロ (ムシロガイ科)  
*Reticunassa fraterculus*  
殻はヒメムシロより細く、殻表は間隔の開いた縦肋でおおわれます。殻長約1cm。



トクサバイ (エゾバイ科)  
*Phos senticosum*  
殻は厚く、細かいトゲの並んだ約10本の縦肋でおおわれます。殻長約3.5cm。



ミガキボラ (エゾバイ科)  
*Kellelia lischkei*  
殻は白色で厚く、殻表には丸みのあるイボが一列に並びます。殻長約10cm。



シワホラダマシ (エゾバイ科)  
*Cantharus mollis*  
殻は紡錘形で低い縦肋を持ちます。生時はふつう殻表に刺胞動物のカイウミヒドラを付着させています。殻長約2.5cm。



イソニナ (エゾバイ科)  
*Japeuthria ferrea*  
殻はつやのない暗緑灰色です。オス(左)はメス(右)よりも細い殻を持ちます。潮間帯の岩陰で普通に見られます。殻長約3cm。

## 巻貝の仲間21



ミクリナガシ (イトマキボラ科)  
*Fusinus tuberosus*

殻は紡錘形で、殻口下部は長い水管になり  
ます。殻表の縦肋は太く、尖ったコブ状で  
す。軟体部は暗赤色です。殻長約6cm。



ヤタテガイ (フデガイ科)  
*Strigatella scutula*

殻は紡錘形で、黒褐色の地に黄白色の不規  
則な縦縞を持ちます。潮間帯の砂礫底に住  
み、ホシムシ類を食べます。殻長約3cm。



コビトマメオトメフデ(ツクシガイ科)  
*Pusia chibaensis*

殻表は低い縦肋でおおわれま  
す。黄白色の地に褐色の帯を  
持ちます。殻長約5mm。



ヒゼンツクシ(ツクシガイ科)  
*Pusia inermis inermis*

殻は紫褐色で、黄白色の斑紋  
が帯状につながります。写真  
は幼貝です。殻長約1cm。



ノミフデ(ツクシガイ科)  
*Thala ogasawarana*

殻は茶褐色で細く、殻表は多  
数の縦肋と螺肋により顆粒状  
になります。殻長約6mm。



サヤガタイモ (イモガイ科)  
*Conus fulgetrum*

殻は逆円錐形で、肩に低いこぶの列を持ち  
ます。殻色は茶褐色で、黄白色の細かいジ  
グザグ模様があります。殻長約4cm。



ベッコウイモ (イモガイ科)  
*Conus fulmen*

殻は丸みを帯びた逆円錐形です。殻色は薄  
紫色で褐色の模様を持ちますが、生時は茶  
色い殻皮でおおわれます。殻長約6cm。



クワイロマンジ(クダマキガイ科)  
*Philbertia leuckarti*  
殻は薄茶色で、縦肋と螺肋で格子目状です。写真は幼貝です。殻長約8mm。



チチジマコウシツブ近似種  
(クダマキガイ科) *Philbertia* sp.  
縦肋と螺肋を持ち、縦肋は一本毎に白色と褐色です。写真は幼貝です。殻長約8mm。



キリツボ(キマツボ科)  
*Graphis infans*  
殻は細長く、半透明白色で薄質です。殻表に多数の縦肋があります。殻長約1.5mm。



シロカドバリナワメグルマ  
(クルマガイ科)  
*Pseudotrinia delectabilis*  
殻は白色の円盤型で、殻表は格子目状です。殻幅約3mm。



スジイリクリームシクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Styloptygma taeniata*  
殻表は平滑で、2本の褐色帯があります。殻長約7.5mm。



チョウジガイ(トウガタガイ科)  
*Mormula philippiana*  
殻は厚く、縦肋を持ちます。白色で、褐色の帯がある個体もいます。殻長約1.5cm。



クワイロヒダクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Tropaeas castaneus*  
殻は茶褐色で細長く、弱い縦肋があります。殻長約1cm。



イソイトカケギリ(トウガタガイ科)  
*Pyrgiscilla yoritomoi*  
殻は白色半透明で細長く縦肋を持ち、縦肋の間に細かい螺肋があります。殻長約6mm。



ヨコイトカケギリ(トウガタガイ科)  
*Cingulina cingulata*  
殻は白色半透明で細長く、殻表は3本の強い螺肋でおおわれます。殻長約8mm。

## 巻貝の仲間23



オンジユクヨコイトカケギリ  
(トウガタガイ科)  
*Paracingulina onzikuensis*  
殻は薄質で、幅広く低い螺肋  
を持ちます。殻長約4mm。



エンジサナギクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Odostomella opaca*  
殻は赤褐色で、殻表の縦肋は  
弱く淡色です。殻長約2mm。



アミメクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Linopyrga tantilla*  
殻表の縦肋の間に弱い螺肋が  
あります。殻長約3mm。



アザミイトマキクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Oscilla voorwindeii*  
殻表の螺肋は同じ太さで、ほ  
ぼ等間隔です。殻長約2mm。



オオレールマキクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Odetta tenpeii*  
螺肋は太く、上方の2本は接  
近します。殻長約4mm。



トウダカチリメンクチキレ  
(トウガタガイ科)  
*Iolaea neofelixoides*  
殻は先細りで、螺肋は細く立  
ち上がります。殻長約3mm。



イソアワモチの一種 (イソアワモチ科)  
*Peronia* sp.

潮間帯上部の石の間に住み、干潮時に活動  
します。触角先端にある眼のほか、背面突  
起の眼点でも光を感じます。体長約3cm。



キクノハナガイ (カラマツガイ科)  
*Siphonaria sirius*

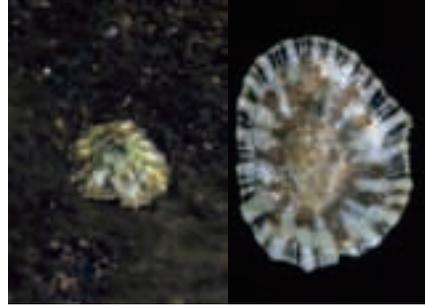
殻は低い笠型で、数本の強い放射肋が周縁  
から突出します。強い放射肋とその間の弱  
い放射肋は白色です。殻長約2cm。



カラマツガイ (カラマツガイ科)

*Siphonaria japonica*

殻は笠型で、殻表には約20本の黄褐色の放射肋があります。岩の表面にゼリー状の卵塊を産みつけます(左写真)。殻長約2cm。



シロカラマツガイ (カラマツガイ科)

*Siphonaria acumaeoides*

殻は低い笠型で、約15本の白色で低い放射肋でおおわれます。潮間帯上部の浅い潮だまりの中でよく見られます。殻長約2cm。



マメクルマミガイ (クルマミガイ科)

*Nucula paulula*

殻は小さく白色厚質で、ちょうつがいには多数の歯があります。潮だまりに堆積した砂の中でよく見られます。殻長約4mm。



コペルトフネガイ (フネガイ科)

*Arca boucardi*

殻は前後に長くよく膨らみます。殻表には多数の放射肋があり、黒褐色の殻皮でおおわれます。殻長約4.5cm。



エガイ (フネガイ科)

*Barbatia lima*

殻は白色でコペルトフネガイより丸みを帯び、黒褐色の殻皮でおおわれます。潮間帯の岩に足糸で附着します。殻長約5cm。



シコロエガイ (シコロエガイ科)

*Porterius dalli*

殻はエガイより膨らみが弱く、ちょうつがいの歯の形が異なります。茶褐色の殻皮は同心円状にけば立ちます。殻長約3cm。

## 二枚貝の仲間2



ムラサキイガイ (イガイ科)

*Mytilus galloprovincialis*

殻は三角形で外面は紫黒色です。ヨーロッパ原産で内湾の潮間帯に普通ですが、外洋の磯でもまれに見られます。殻長約5cm。



クジャクイガイ (イガイ科)

*Septifer bilocularis*

殻表に放射肋を持ち、けば立った殻皮でおおわれます。内面に隔板があります。足糸で岩に付着します。殻長約2.5cm。



ムラサキインコ (イガイ科)

*Septifer virgatus*

殻は紫黒色で、殻皮の毛はなく、若いうちは殻表に放射肋があります。殻頂部の内面に隔板があります。殻長約2.5cm。



ヒバリイガイモドキ (イガイ科)

*Hormomya mutabilis*

殻はやや薄く、殻表に放射肋があります。隔板は持ちません。潮間帯の岩に密集して足糸で付着します。殻長約2cm。



イシマテ (イガイ科)

*Lithophaga curta*

殻は前後に長く、殻表は薄茶色の殻皮と石灰質の沈着物でおおわれます。柔らかい岩に穴を掘り生息します。殻長約5cm。



アコヤイガイ (ウグイスイガイ科)

*Pinctada martensii*

殻長と殻高がほぼ等しく、殻表は櫛皮状です。左殻の方がふくらみます。殻は乾燥すると割れやすくなります。殻長約7cm。



ウスユキミノ (ミノガイ科)  
*Limaria hirasei*

殻は長円形で薄く、殻表は細かい放射肋でおおわれます。生時は外套膜の縁の長い触手を伸ばします。殻長約4cm。



ケガキ (イタボガキ科)  
*Saccostrea kegaki*

左殻で潮間帯の岩に固着します。左殻の周縁部と右殻外面に黒い管状のトゲを密生させます。殻長約5cm。



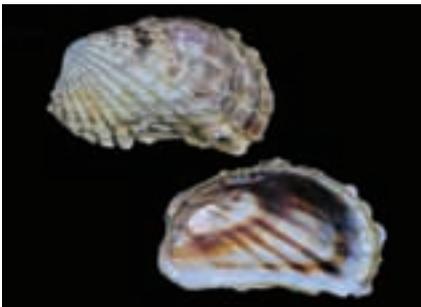
ウミアサガイ (ツキガイ科)  
*Epicodakia elicatula*

殻は円形でふくらみは弱く、殻表は不規則に分岐する放射肋でおおわれます。潮間帯～潮下帯の砂中に住みます。殻長約1cm。



ヤエウメ (フタバシラガイ科)  
*Phlyctiderma japonicum*

殻は薄質でよくふくらみます。殻表には細かい輪肋があります。潮間帯の柔らかい岩に穴を掘り生息します。殻長約1.5cm。



トマヤガイ (トマヤガイ科)  
*Cardita leana*

殻は厚質で前後に長く殻頂は前寄りです。殻表は強い放射肋でおおわれます。潮間帯の岩に足糸で付着します。殻長約3cm。



シラトリモドキ (ニッコウガイ科)  
*Heterocoma irus*

殻は厚質でふくらみは弱く、後端はとがります。殻は白色で、内面は黄色味を帯びます。砂礫底に住みます。殻長約5cm。

## 二枚貝の仲間4



オニアサリ (マルスダレガイ科)  
*Protothaca jedoensis*  
殻は厚く卵形で、よくふくらみます。殻表には強い放射肋があります。腹縁の内面は細かく刻まれます。殻長約3cm。



イナミガイ (マルスダレガイ科)  
*Gafrarium disper*  
殻形はアサリに似ますが厚質でふくらみは弱く、殻表の前部と後部に放射肋があります。腹縁内面は滑らかです。殻長約3cm。



ケマンガイ (マルスダレガイ科)  
*Gafrarium divaricatum*  
殻は厚く卵形で、よくふくらみます。殻表全面に分岐する放射肋を持ちます。千葉県では非常に希です。殻長約4cm。



アサリ (マルスダレガイ科)  
*Ruditapes philippinarum*  
殻はやや薄く、殻表は細かい放射肋と輪肋で布目状になります。殻の模様は変異に富みます。殻長約4cm。



ウチムラサキ (マルスダレガイ科)  
*Saxidomus purpurata*  
殻はアサリより厚質で、殻表にはやや不規則な細かい輪肋を持ちます。殻は白色で、内面は濃い紫色です。殻長約8cm。



マツカゼガイ (マルスダレガイ科)  
*Iruus mitis*  
殻は前後に長く、後方はやや角張ります。殻表は輪肋でおおわれます。潮間帯の岩に穴を掘って生息します。殻長約2.5cm。

## 参考図書

### 貝類図鑑など

池田 等・松沢陽士. 2009. 海辺で拾える貝ハンドブック. 文一総合出版.  
奥谷喬司(編). 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.  
白山義久ほか. 2005. 水の生物. 小学館の図鑑NEO 7. 小学館.  
波部忠重・小菅貞夫. 1967. 貝類. 標準原色図鑑全集3. 保育社.

### 磯の貝の観察方法や生態のガイドブック

秋山章男. 1983. 磯浜の生物観察ハンドブック 磯浜の生態学入門.  
東洋館出版社.  
朝倉 彰. 1984. 海辺の生物の観察. グリーンブックス113.  
ニュー・サイエンス社.  
岩崎敬二. 1999. 貝のパラダイス. 東海大学出版会.  
波部忠重. 1975. 貝の博物誌. カラー自然ガイド25. 保育社.

### 貝類学の教科書

佐々木猛智. 2010. 貝類学. 東京大学出版会.

#### 海の生きもの観察ノート⑩

### 磯の貝を観察しよう

2011年(平成23年)3月1日発行

編集・執筆・写真撮影 立川浩之(千葉県立中央博物館)

発行 千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123

電話 0470-76-1133(代)

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

(本誌掲載内容の無断転載は固くお断りします)

Field Guide to Rocky Intertidal Shells of Boso Peninsula, Japan.

Hiroyuki Tachikawa

Copyright ©2011 Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba

Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba



CHIBAちば



みんなで取り組む  
千葉の教育